

桜美林大学様

3 ポリシーを踏まえた取組に関する
外部点検・評価報告書
<2025 年度>

2026 年 3 月

河合塾グループ
株式会社 KEI アドバンス

KEI 大学経営総研

1. 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を踏まえた 入学者選抜の取組に関する評価

大学全体のアドミッション・ポリシー(AP)として、求める人物像や、学生が入学までに修得すべき能力が明確に示され、文部科学省のガイドラインで求められる要素を満たした AP が策定されている。各学群はこの大学 AP を踏まえて個別の AP を策定し、ホームページ等で公開している。

入学者選抜の基本方針は、ディプロマ・ポリシー(DP)およびカリキュラム・ポリシー(CP)との整合性が図られている。「国や地域を問わず幅広く求める」との方針に基づき、地方試験会場の設置や総合型選抜、学校推薦型選抜におけるオンライン面接の実施、育成型入試等の多様な制度の導入、グローバル人材育成を目的とした奨学金制度の整備など、多角的な取り組みがなされている。

各学群 AP においては、DP に掲げる「育成する人材像」に基づき、社会的背景にも言及したうえで、学生が入学前に身につけるべき素養を 5 項目に分類し記載している。今後、これらの各項目を CP の学修内容とより具体的に関連付け、選抜における評価方法を明示することで、受験生にとってより理解しやすい AP になると考えられる。また、一部の学群の AP において、基礎学力や外国語運用能力が求める素養として掲げられているが、学生が到達すべき具体的な水準については明示されていない。受験生への分かりやすさの観点からも、具体的な指標を提示することが望まれる。

なお、内容は DP と重複する部分や各学群間で共通する項目が多いため、以下に特徴的な記載を抜粋して記述する。

➤ リベラルアーツ学群

「自立した学習者」(Independent Learner)の育成のため、広い分野の基礎学力に加え、入学後に専門性を深める各分野への強い関心を有する学生を求めている。入学後の学修に結びついた AP となっている。

➤ 教育探究科学群

学生の卒業後に期待される社会への貢献内容が分かりやすく記載されており、DP への到達に必要な学生の素養が具体的に示されている。DP の内容に直接結びついた AP であると言える。

2. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえたカリキュラム内容・学修成果についての取組に関する評価

大学全体のカリキュラム・ポリシー（CP）が、同じく大学全体として掲げられた「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」の内容を踏まえて策定されており、文部科学省のガイドラインで求められる要素を満たしていると言える。教育課程の編成、学修方法、学修成果の評価の在り方といった具体的方針が明確に示されており、特に教育課程の編成においては、科目区分ごとに学修内容や目的を詳細に説明している。各学群はこの大学CPを踏まえて個別のCPを策定しており、ホームページ等でその内容を公開している。

また、学生の主体的な学びを促進する「サービスラーニング科目」の設置や「アドバイザー制度」の導入など、DPに掲げる学修成果を達成するための学習支援体制を整備しており、これらの取り組みについても広く公開されている。

以下、各学群CPの主な特徴をあげる。

➤ グローバル・コミュニケーション学群

科目の区分ごとに目的や内容が記載されているため、入学前の高校生にとって学習内容が想像しやすく、また選択言語ごと（トラック別）に必要な単位数が明記されているため、学修内容が想像しやすいCPであると言える。学修成果の評価方法に関しては、別途シラバスを参照する必要がある。

➤ ビジネスマネジメント学群

DPの内容を踏まえ、体系的にカリキュラムを構成しており、CPにおいても明記されている。また、学生の目標ごとに「履修モデル（学修ストーリー）」を掲載しており、入学者が学修計画を立てる上で非常に参考となる。

➤ リベラルアーツ学群

DPを踏まえ、科目ごとに学修の目的を明記している。年次ごとの履修科目について詳細な説明があり、入学後の履修モデルが想像しやすいCPである。また、学修支援体制についても言及している。

➤ 教育探究科学群

科目構成のほか、授業の実施方法や学修成果の評価方法などを具体的に記載しており、入学前の高校生にとって授業の様子が想像しやすいCPとなっている。

➤ 芸術文化学群

専修別にCP、カリキュラム・マップ、履修モデルが掲載されており、学修内容や各科目の学修目的が入学前の高校生から見て分かりやすく示されている。

➤ 健康福祉学群

特徴として、DPに掲げている資質能力を総合的に育成するために、メジャー・マイナープログラムを提供している。CPでは各科目の学修内容の詳細を具体的に記載している。

➤ 航空学群

育成する人材像が明確なため、CPにおいても卒業後の進路に直結した学修内容が具体的に説明されており、入学前の高校生にとって分かりやすいCPとなっている。

3. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえた取組に関する評価

大学全体の大学ディプロマ・ポリシー(DP)が策定され、学生が身に付けるべき資質・能力の目標が明確に示され、単位数や通算 GPA スコアなどの卒業要件も具体的に示されている。文部科学省のガイドラインで求められる要素を満たした DP が策定されている。各学群はこの大学 DP を踏まえて各学群の DP を策定し、ホームページ等で公開している。ただ、大学 DP を踏まえて策定されていることもあり、各学群 DP で大学 DP と重なる内容も多い。各学群では特色に応じた詳細な DP となっているため、今後は大学 DP をシンプルにする等の調整を行うことも考えられる。

以下、各学群 DP の主な特徴をあげる。

➤ グローバル・コミュニケーション学群

育成する人材像がやや抽象的だが、卒業認定・学位授与に必要な 4 つの要件を具体的に示していることで、入学前の高校生が、身につけるべき資質・能力について理解することができると考えられる。

➤ ビジネスマネジメント学群

育成する人材像が、高度なビジネスパーソンと明確に示されており学群 DP ではそのために必要な要件が記載されている。入学後から卒業までの見通しが持てる学群 DP である。

➤ リベラルアーツ学群

多文化理解や学際的思考など、卒業までに身につけるべき 4 つの資質・能力が示されており、学群の特徴が端的に表現された学群 DP である。

➤ 教育探究科学群

学群 DP では、卒業までに身につけるべき 6 つの能力・スキル・態度があげられている。社会とのつながりなど卒業後の進路が具体的に示されるとさらに分かりやすい学群 DP になると思われる。

➤ 芸術文化学群

学群 DP では各専修が目指す専門的人材の職種等を具体的にあげている。入学前の高校生から見ても進路や目標が分かりやすく示されている。

➤ 健康福祉学群

学群 DP ではプロフェッショナルに求められる資質と能力が説明されている。資格取得等については触れられていないが、学群の特色から見て、専門的職業の資格取得を考える入学希望者や高校生は多いと思われる。

➤ 航空学群

人材養成の目的が「航空各分野で活躍できる人材」と明確なため学群 DP の随所に「航空」、「ビジネス」の文言があり、卒業後の進路や社会とのつながりが分かりやすい。

4. 総評（3つのポリシー相互の関係に関する評価等）

大学全体および各学群の3ポリシーは、DPを受ける形で、CPが策定されており、それがAPにつながる構造である。3ポリシーには一貫性があり、整合性がある。また、高校生を含む関係者が十分に理解できる内容と表現で記載されている。

現在、各学群DPで定めた卒業までに育成する資質・能力について、成績評価から達成度を測定し、大学DPとの関係を重みづけのある数値に変換して、大学DPを可視化する施策が全学的な会議体で検討されている。さらに、これに外部アセスメントテストのスコアや授業アンケートの結果を組み合わせ、大学DPの達成度を定量化する案が、具体的なスケジュールを定めて進められている。この定量化により、大学DPと各学群DPとのつながりを通して、教育課程および個々の科目のアセスメントが可能となる。まさに3ポリシーを基本とした内部質保証のための改善のサイクルが回ることになり、他大学の模範となる取り組みである。

ただ、現在、検討されている方法では、評価の作業負荷もさることながら、評価システム自体が大きなシステムとなるため、3ポリシーの一部を改善・変更したり、授業科目の一部を変更したりした場合には、それぞれの関連づけを再構築するなどシステムの改修が煩雑になることも考えられる。例えば、DP達成度の測定については、他大学で行われているような、卒業時アンケート（学生による自己評価）によって、直接的にDP達成度を測定し、それに外部アセスメントテストのスコアなどを組み合わせる方法も考えられる。

なお、3ポリシーに共通して言えることだが、大学DP、大学CP、大学APの記載内容が詳細なため、入学を希望する高校生が、大学3ポリシーと志望する学群の3ポリシーの両方を読み込み、内容を統合して理解することの難易度はそれなりに高いと思われる。どちらかをよりシンプルな内容とするか、あるいは大学3ポリシーと各学群3ポリシーで重複する内容を図示するなどの工夫があると、高校生から見て、より分かりやすくなると思われる。

<報告書作成者>

2026年3月

KEIアドバンス大学経営総合研究所

上席研究員：神戸悟

研究員：阿部千尋

〒171-0022 東京都千代田区麹町3-2

ヒューリック麹町ビル6F

株式会社KEIアドバンス内

電話 03-5276-2736
